

# 聞くことを通して、考えの再構築を促す小学校外国語の授業 教師の児童への願いに基づいた単元設定の中で

著者	滝沢 雄一, 乗富 智子
著者別表示	TAKIZAWA Yuichi, NORITOMI Satoko
雑誌名	教育実践研究
号	47
ページ	7-19
発行年	2021-11-01
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00064354">http://doi.org/10.24517/00064354</a>



## 聞くことを通して、考えの再構築を促す小学校外国語の授業

### —教師の児童への願いに基づいた単元設定の中で—

## Encouraging Students to Reconstruct Their Ideas Through Listening in the Elementary School Foreign Language Classes: In the Units Set Up on the Basis of the Teacher's Wishes for the Students.

滝沢雄一\*・乗富智子\*\*

TAKIZAWA Yuichi, NORITOMI Satoko

### 1. 実践の背景

#### 1.1 考えの形成、整理、再構築

平成 29 年に告示された学習指導要領では、各教科において育成すべき資質・能力として「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の 3 つが示された。

外国語科においては、外国語によるコミュニケーションを行うことを通して、これらの資質・能力を育成することが求められる。コミュニケーションとは、考えや情報などのメッセージ(意味内容)の授受であり、メッセージが伝えられるためには適切な語彙や文構造などの言語材料(言語形式)が必要となる。

この言語材料についての知識・理解、及び実際のコミュニケーションで活用できる技能が「知識及び技能」である。学習指導要領は「知識及び技能」に関して、「英語の特徴やきまりに関する事項」を外国語の内容の一つとして位置づけている。一方、「思考力・判断力・表現力等」に関しては、「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」を位置づけている。その中で、身に付けることができるようにすることとして、小学校において中心となる領域である「聞くこと」「話すこと」について、「ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上

で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと」と記されている。

指導要領の改訂に先立ち中央教育審議会から出された「幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(答申)では、外国語科における「思考力・判断力・表現力等」が、「外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力」と「考えの形成・整理」の 2 つに整理されている。後者の「考えの形成・整理」には、主に以下の 3 つの力が記されている。

- 目的等に応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力
- 知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力
- 形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力など

ここには、形成・整理に加え、「再構築」が含まれる。先述の身に付けることができるようにする事項アについて、学習指導要領解説は、「ここで重要なことは、コミュニケーションを行う際、英語で伝え合うだけでなく、自分の考えと、コミュニケーションする相手の考えを比較したり、

新たな考えを知識として取り入れたりしながら、自分の考えを再構築することである」(p.99)と記している。英語で自分の考えを伝え合うだけでなく、コミュニケーションを通じて、他者の考えに触れ、そこから新たな考えを取り入れながら、自分の考えを再構築することの重要性が指摘されている。

「聞くこと」「話すこと」が中心となる小学校の英語の授業においては、自分の考えを形成、整理して話すだけではなく、聞くことを通して他者の考えに触れ、自分の考えと比較しながら、自分の考えを再構築することが必要である。そして、そのためにはどのような単元や言語活動を設定するか、コミュニケーションを通じて、どのような考えや情報を聞かせるか、また、その考えや情報をどのようなタイミングで聞かせるかが重要となる(乗富・滝沢, 2019c)。

### 1.2 考えの再構築と学級づくり

学級担任は担当する学級の児童に対する自身の理解に基づき、学級経営の目標を設定し、指導の方向性を考え、様々な指導に当たる。各教科の授業づくりにおいても学級経営がベースとなる側面が多分にあるが、それと同時に、授業づくりが学級の形成や一人ひとりの児童の人間形成にも大きな影響を及ぼす。授業で学び、経験することが知識や技能として身に付くことはもちろんであるが、考え方が広がったり、深まったりし、それらが自分のものとして身に付いていき、人格形成につながる。

外国語の授業においては、互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動が授業の中心となり、小学校においては、自分のことや、相手のこと、日常生活に関すること、身近なことなどが主要な話題となる。そのため、言語活動は、子どもたちが自分自身のことや身の回りの友達のことを考える機会となる。そこで、学級担任として学級の児童に対して願う姿をゴールとしてイメージし、それに基づいた単元や言語活動を設定し、その中で様々な考え方に触れさせることにより、児童一人ひとりが自分の考えを表現する

ことに加え、自分の考え方を検討し、再考する機会を設定することが可能となる。そして、学級経営や人間としての成長、人格形成につながる授業になると考える(乗富・滝沢, 2019a)。

### 1.3 聞くことの重要性

小学校外国語においては、「聞くこと」「話すこと」が中心となるが、中でも「聞くこと」はたいへん重要である。先述の通り、「聞くこと」の活動を通して、他者の考えなどに触れ、新たな考えを取り入れるなどして、考えを形成、整理して表現する活動へとつなげていくことが可能であり、さらには自分の考えを広めたり、深めたりして再構築していくことにつながる。

さらに、「聞くこと」は言語習得の視点からでもたいへん重要である。Harmer (1998, 2001)やWillis(1996)は言語学習の必須条件として、「言語に触れること」、「言語を使用する機会」、「動機」を挙げている。言語を習得するための条件については、研究者の中でも見解が分かれる部分があるが、「言語に触れること」について異論を唱える者はいない。

コミュニケーションにおいては、「聞くこと」「読むこと」を通して考えや情報を理解するが、言語習得の視点からは、語彙や文構造などの習得も同様に、「聞くこと」「読むこと」を通して行われる。英語に触れ、意味内容を理解する過程で、言語形式に気付き、身につくのが言語習得のプロセスである。特に、外国語学習を開始して間もない小学生にとって、言語を習得するために、「聞くこと」は極めて重要であり、不可欠な活動といえる(乗富・滝沢, 2019b, d, e)。

## 2. 研究課題

前節の考え方を背景として、1年を通じて実践を行う上で、次の研究課題を設定した。<sup>1)</sup>

教師の児童への願いに基づいた単元設定の中で、聞く活動を通して、考えや情報に触れさせることによって

(1) 友達や教師の考えや情報を聞いて、自分の考えを再構築することができるか。



(2) 単元を通して教師が願う児童の姿への変容や成長が見られるか。

これらの研究課題について取り組んだ 2019 年度 1 年間の実践の中から、本研究では、7 月と 11 月の 2 つの実践について検討する。

### 3. 実践 1 (7 月)

#### 3.1 児童の実態

担任した学年は 5 年生である。4 月に進級した当初、英語の授業だけでなく、他の授業においても、児童は積極的に発言したり、教師の問いかけに反応したりする様子が見られなかった。授業は一部の学習が得意な児童のみが発言し、全員が積極的に授業に参加しているとは言えない状況であった。間違いや失敗を恐れてしまい、自信を持って自分の考えを述べることができない児童が多く、友達との深い関わりが持てず、教師や友達との人間関係を十分に築けていない様子が見られた。

例えば、5 月に行った *We Can! 1* Unit 3 *What do you have on Monday?* の実践では、「未来の『なりたい自分』に近づくための夢の時間割を考えよう」をゴールとした単元を設定し、学習を進めた。この時の児童は、Teacher talk などによる教師からの問いかけに反応したり答えたりせず、周りの友達の反応を過剰に気にする様子が見られた。

加えて、外国語の授業においては、Teacher talk 等、教師の話す英語を十分に聞き取ることができず、話の内容を理解することができていなかった。そこで、その後の英語の授業においては「聞くこと」を重点的に指導した。週 3 回実施している 15 分授業 (モジュール学習) は聞く活動を中心に実施し、45 分授業においても Teacher talk を活用するなどして、まとまった量の英語を繰り返し、継続的に聞かせた。また、未習の表現が含まれていてもあきらめずに話の内容を理解しようと聞き続けられるように、視覚的に理解できる教具を用いながら聞かせる工夫をした。

その結果、まとまった量の英語でも内容を推

測しながら聞いて理解することが徐々にできるようになってきた。しかし、自分の考えや気持ちを述べることについては課題が残されたままであった。また、表面的な関わりのみで友達との人間関係を築いている様子が見られ、自分の思いや考えを安心して友達に伝えることができていない。そのため、お互いのことを理解することも十分にできていない。

#### 3.2 児童に対する教師の願い

上記の実態を持つ児童に対する、担任としての願いは以下の 2 点である。<sup>2)</sup>

- (1) 自分の思いや考えについて、自信を持って友達に伝えるようになって欲しい。
- (2) お互いのことを、より深く理解してほしい。

#### 3.3 実践の内容

##### 3.3.1 教師の願いに基づく単元設定

###### (1) 単元設定の理由

本単元は、*We Can! 1* Unit 2 *When is your birthday?* をもとに設定した。Unit 2 は、さまざまな行事や誕生日がトピックであり、友達にバースデーカードを贈り合うことが単元末の活動となっている。そのため、月日の言い方に慣れ親しんだり、誕生日や誕生日に欲しいものなどを伝え合ったりする活動が中心となる。

しかし、これらの活動を先述の児童の実態及び児童に対する教師の願いに照らすと、授業が多くの児童にとって自分の誕生日でない時期であることや伝え合う情報が誕生日や欲しいものであることから、表面的に情報を伝え合うだけの活動になってしまう可能性が考えられ、自分の思いや気持ちを自信を持って相手に伝えたり、友達についてより深く理解したりすることにはつながりづらいと考えた。自信を持って相手に伝えるためには、その日が本当に自分にとって意味のある、伝えたいと思えるような日である必要がある。そして、伝えたいと思える意味のある日であれば、聞き手は、友達の話聞いてその日についての考えや気持ちを押し量りながら、相手への理解を深めることが可能になる。

そこで、本単元を My Special Day とし、誕生日について聞いたり話したりすることをきっかけに、子ども一人ひとりがもつ、「大切な日」について友達に伝え合う活動を単元の中心に位置づけた。誕生日だけではなく、弟や妹が生まれた日、初めて泳げるようになった日など、一人ひとりの心の中にある、本当に大切な思い出の日はいつなのかを考えることによって、積極的に発言することが苦手な児童であっても、より自信を持って大切な日について友達に伝えることにつながると考えた。そして、自分の大切な日を友達に伝えたり、友達の大切な日を聞いたりすることによって、自分自身や友達のことを深く知ることができる。友達との共通点を見つけたり、新たな一面を見つけたりすることで、友達との関わりが深くなることが期待できる。

## (2) 単元展開 (全8時間)

本単元の流れを表1に示す。

本実践では、45分授業と15分の授業(モジュール授業)を組み合わせで行った。モジュール授業は、3回で1時間とカウントしている。

第一次では、児童にゴールを提示し、ゴールに到達するまでにどのような学習が必要なのかを考えながら学習計画を児童とともに決めた。

第二次では、まず、自分の大切な日はいつなのかを考えさせ、英語で表現させた。その後、複数の教師等の大切な日を英語で児童に聞かせた。教師の大切な日の話を聞くことによって、子どもが大切な日という概念を捉え直したり、大切な日について再考する視点に気付き、もう一度、より深く自分にとって本当に大切な日はいつなのかを考えることができたようにした。

大切な日にしたいことの学習では、大切な日に関わる人を思い、その人のためにできること、その人と一緒にしたいことを考えさせた。

第三次では、自分の大切な日を友達と伝え合った。自分と同じ大切な日や同じ月を考えている友達がいるかなど、目的をもって友達とコミュニケーションができるようにした。

表1 単元展開

次	時	学習活動
1	1	<学習の見通しをもとう> ・学習の計画を立てる
	2	Let's Watch and Think 1, 2 (M) ・世界の行事と月 Let's Listen 1 ・日本の行事と月
2	1	<自分の大切な日はいつかな> ・自分の大切な日を言う ・教師の大切な日などの話を聞く ・自分の大切な日をもう一度考える
	2	Let's Listen 2 (M) ・日本の行事 Let's Listen 3 ・登場人物の誕生日
3	1	<大切な日に何をしたいか考えよう> ・大切な日にやりたいことを英語で表現する
	2	Let's Watch and Think 3, 4 (M) ・登場人物の好きなもの・好きなこと
3	1	<自分の大切な日やその日にしたいことを友達に伝えよう> ・友達と大切な日について伝え合う
	2	<単元の学習をふり返ろう> ・単元で身につけた力 ・単元の学習で深く考えたことをふり返る

M: モジュール授業×3

### 3.3.2 再考のための聞く活動

第二次において、児童がそれぞれ考えた大切な日について、再考するための視点を与えるために教師の大切な日などを英語で聞かせた。その授業の学習の流れを表2に示す。

導入として、毎時間、まとまった内容の英語に触れるために、季節に合ったものやニュースで話題になっている時事など身近な話題を、教師が児童と英語でやり取りしながら、聞かせる



表2 学習の流れ

時	学習活動
導 入	1. あいさつ、Teacher talk ・季節の話題について英語で聞かせる
	2. 本時の課題を確認する ＜自分の大切な日はいつかな＞ ・自分の大切な日を言ってみる
展 開	3. 教師の話聞く ・担任、学年の先生、Kazu の大切な日 の話聞く
	4. 再考する ・もう一度自分の大切な日はいつかを 考える
終 末	5. 本時の学習をふり返る ・視点に沿ってふり返りを書く

Teacher talk を行った。

展開に入り、本時の課題を確認した後、児童に大切な日を英語で尋ねた。多くの児童が誕生日やクリスマス、お正月など、プレゼントなどをもらえる日を選んだ。そこで、大切な日についての考えを広げたり、深めたりすることができるよう、再考する視点に気付かせるために、教師や *We can!1* の登場人物である Kazu の大切な日のエピソードを英語で聞かせた。スクリプトを表3に示す。

各エピソードについて、一通り英語で聞いた後、もう一度聞きながら、ワークシートに聞き取ったことをメモした。その後、英語の質問に答えながら内容理解の確認をした。「先生やカズはこのとき、どんな気持ちだったと思う？」と問いかけた。児童からは、Happy!、どきどき、わくわくといった反応が見られた。さらに、大切な日のエピソードとして、「私の大切な日はさよならデーです。悲しいことだからこそ大切にしたい」と書いた児童Aのふり返りを紹介した。

### 3.4 データ分析

研究課題について明らかにするために分析対象としたデータは、主に、(1) 前節で述べた聞く

表3 大切な日のエピソードのスクリプト

Noritomi-sensei (担任)
My special day is October 29th. It is <i>Hyakumangoku</i> day. I went to Okayama for our brass band competitions. We got a gold prize for the first time. I was very happy. I want to play the clarinet with my friends.
Yokogawa-sensei (他の学級の教師)
I'm Mr. Yokogawa. My special day is April 1st. It's my first teacher day. I was in Minamikodatsuno elementary school. The schoolteachers are very kind. I was nervous but I was happy to be a teacher. I want to see my students on that day.
Kazu ( <i>We can!1</i> の登場人物)
I'm Kazu. I'm eleven years old. My birthday is April 8th. My special day is April 8th. We have a new student. She is Maria. She is our new friend.

活動を行った授業のワークシート、(2) 大切な日を友達に伝え合った活動を行った授業のワークシート、(3) 本単元終了後のふり返りのワークシートの3種類である。また、授業を録画したビデオ、観察時に記録したフィールドノートを補助的に活用した。

(1)のワークシートからは、主に教師のエピソードを聞く前後での児童の考えの変容を、(2)及び(3)のワークシートからは、主に伝え合った活動をや単元全体をふり返り自分ができたこと、友達に対する理解などについて検証した。

### 3.5 結果と考察

#### 3.5.1 研究課題 (1) : 考えの再構築

ワークシートの記述より、教師のエピソードを聞く前と後で、大切な日を変えた児童が多く見られた。一方、変えずに同じ日を選んだ児童であっても、その日の自分の気持ちや選んだ理由をより深く考え直している様子が見られた。

前者としては、最初に大切な日として誕生日

を選んだ児童が多く、他の日に変更した。変更が見られた児童の例として、児童 B の授業のワークシート及び単元末のふり返しワークシートに見られた記述を表 4 に示す。

児童 B は、大切な日を誕生日から入学した日に変更した。単元末のふり返しシートの記述から、最初は十分に考えることなく、安易に誕生日を選んだが、教師の大切な日のエピソードなどを聞いて、本当に大切な日は何かと自問し、再度考え直している様子が見てとれる。さらに、児童 B は、1 学期に行われたこの単元での経験を踏まえ、続く 2 学期でつけたい力として思考力について書いており、普段あまり考えないことも考えていきたいという意欲が見られ、これまでの自分の思考をさらに広げていくことの大切さを実感していると思われる。

また、教師のエピソードを聞いた後でも、大切な日を変えずに同じ日を選んだ例として児童 C のワークシートの記述を表 5 に示す。

児童 C は聞く活動の後、自分の大切な日を「March 31st バイバイヤマデー」とした。教師の話を書く前から、大切な日は March 31st としていたが、理由をたずねると、「何となく。印象に残っているから」と答えており、その日を大切な日に選んだ明確な理由をもっていなか

表 4 児童 B のワークシート

授業のワークシート
大切な日 (最初) マイバースデー (聞く活動の後) 初入学デー
単元末のふり返りのワークシート
<単元全体をふりかえって、気づいたこと、新しくわかったこと、深く考えたこと> ・「私の本当の大切な日って何ですか」って自分自身に問いかけることができました。最初はあっさりバースデーにしていますが、少しちがうんじゃないかなって、気づくことができました。
<2 学期にどのような力をつけたいか> ・ふだんあまり考えないことにも、思いつかないことにも関われる力

表 5 児童 C のワークシート

授業のワークシート
大切な日 (最初) 富山デー (聞く活動の後) バイバイ富山デー 理由 富山をはなれる日で、とんでもなくかなしかったから。
単元末のふり返りのワークシート
<単元全体をふりかえって、気づいたこと、新しくわかったこと、深く考えたこと> ・富山をはなれた日は、いつのまにか、自分の大切な日になっていたこと

った。教師のエピソードなどを聞いて、もう一度大切な日のことを考え、再度 March 31st を選び、その理由として、「富山を離れる日で、とんでもなく悲しかったから」とその時の気持ちを書いた。さらに、単元末のふり返しには「富山をはなれた日は、いつのまにか、自分の大切な日になっていたこと」と書いている。これらのことから、最初は深く考えることなく思いついた日について再考し、そのときの自分の気持ちを思い出して、その日が自分にとってとても大切な日であることに気づいたことがわかる。大切な日について思考を深めたといえる。

児童 B、児童 C をはじめ、大切な日を変更したり、理由をより明確にした児童の姿から、聞く活動を通して、思考を広げたり、深めたりし、自分の考えを再構築したと考えられる。

### 3.5.2 研究課題(2): 児童の変容や成長

本単元設定時の児童に対する教師の願いは、「自分の思いや考えについて、自信を持って友達に伝えるようになって欲しい」、「お互いのことをより深く理解してほしい」の 2 点であった。

授業のワークシートのふり返りの欄では、全員が自分の大切な日やその日にしたいことを友達に伝えることができたことと記した。さらに児童 C は、単元全体をふり返し、ワークシートの 2 学期にはどのような学習をしたいですかとの問



いに対し、「自分の意見についてしっかり言える学習」と書いた。

これらの記述及び授業の観察から、児童は自分の大切な日やその日にしたいことについて、友達に伝えることができたと考えられる。そして、自分の考えをしっかりと持ち、それを伝えることの重要性にも気づいている。

一方、友達の大変な日やその日にしたいことがわかりましたかという問いに対しても全員がわかったと回答した。また、「友達の大変な日聞いて」の欄や単元末のふり返りのワークシートには表6のような記述が見られた。友達の大変な日についての話を聞いて、自分のことと比較しながら、共通点を見つけて共感したり、同じ日を選んでいても異なる理由であることに気づいたりしながら、友達の大変な日について深く理解している。

加えて、大切な日について考えた授業のワークシートのこれからやってみたいことの欄に、「友達に紹介してみたい」、「他の友達はどんなことを考えたか交流したい」などの記述が多く見られた。聞く活動を通して、大切な日についての思考を広めたり、深めたりしたことが、自分のことについての思いを友達に伝えたい、友達のことを聞きたいという意欲の向上につなが

表6 授業及び単元のふり返り

授業のワークシートのふり返り

・似ている人やへえと思うのがありました。楽器の日などがありました。やりたいことが同じ人がいました。

・気持ちが分かるような友達が多かった。「1日中英語を話す」はそうなんやーと思った。

・(同じ)「入学デー」でも、意外としたいことはちがうんだな…と思いました。

単元末のふり返りのワークシート

<単元全体をふりかえって、気づいたこと、新しくわかったこと、深く考えたこと>

・いろんな友達の紹介を聞いたり、自分の紹介をしたりして「自分と似ているなー」に気づけた。

っていると思われる。

さらに、授業観察を通して、研究課題以外の点の変容として、子供同士の人間関係が少しずつではあるが改善し、安定してきたことを感じ取った。授業中もつぶやきや発言が増え、声を出すことをためらわず、教師からの問いかけにははっきりと反応ができるようになっている。

### 3.5.3 課題

本単元を含め、以前より「聞くこと」を重点的に指導してきたことで、まとまった量の英語を聞くことには慣れてきたが、「話すこと」については課題が残された。大切な日を決めた後、その日にしたいことを考え表現したが、「大切な日にやりたいこと」を英語で表現するとなると、既習の言語材料だけでは十分に表現することができないことがあり、一人ひとり個別に指導する必要が生じた。子供の本当に言いたいことを英語で表現するには、より多くの英語表現に触れ、学ぶ機会を用意することが必要である。

## 4. 実践2 (11月)

### 4.1 児童の実態

1学期の各教科等の指導を経て、子供たちは教師や友達と以前より人間関係が深まってきた。外国語の授業では教師の問いかけに元気に反応するようになり、聞く力も着実に伸びていると実感できる。

一方で、間違いや失敗を恐れて挑戦することができないという姿が見られた。2学期後半になると、さまざまな場面で5年生が初めてリーダーとなって活動することになるが、なかなか積極的に立候補したり活動したりすることができなかった。授業においても、自信のあることについては、教師の問いかけに対して大きな声で答えられるものの、未習の事柄が含まれていたり、自分の思いや考えを述べたりする場面ではまだ躊躇する様子が見られた。

また、失敗した場合にそれをなかつたことにしたり、失敗の原因を人のせいにしてたりする姿も見られた。失敗を単に悪いことと捉えている



児童が多く、失敗した後すぐに諦めてしまい、結果的に失敗したことから学ぶという貴重な機会を逸してしまっている。人生に失敗はつきものであり、失敗を恐れ過ぎず、受け入れながら学ぶことにより成長していくことが、児童にとってこれからの生涯を生きる上で不可欠である。

#### 4.2 児童に対する教師の願い

上記の実態を持つ児童に対する、担任としての願いは以下の3点である。

- (1) 失敗を恐れず、挑戦できるようになって欲しい。
- (2) 失敗したことから目を背けず、失敗から学んで欲しい。
- (3) 他者の生き方に触れ、自分の生き方について考えて欲しい。

#### 4.3 実践の内容

##### 4.3.1 教師の願いに基づく単元設定

###### (1) 単元設定の理由

本単元は、*We Can!* Unit 9 Who is your hero? をもとに設定した。Unit9 は、憧れたり尊敬したりする人物について紹介する活動が単元末に設定されており、得意なことを表す言い方に慣れ親しんだり、得意なことを伝え合ったりする活動が中心となる。

伝記やメディアに取り上げられる人物には、素晴らしい業績がある。しかし、その背後には、失敗や挫折がある。子供が尊敬する人物について調べたり紹介したりする学習を通して、偉人たちであっても、失敗や挫折を幾度となく経験していることや失敗しても諦めずに努力し続け、乗り越えてきたことに触れさせることができると考えた。そして、尊敬する人物の生き方を知ること、失敗を恐れずに挑戦すること、自分の失敗から目を背けず、そこから多くのことを学ぶこと、そして、人物の生き方を学び、自らの生き方について考えることが期待できると考え、本単元 Who is your hero? を設定した。

表 7 単元展開

次	時	学習活動
1	1	<学習の見通しをもとう> ・学習の計画を立てる
	2	Let's Watch and Think (M) ・わかったことを書く
2	1	<ヒーローは誰かな> ・自分のヒーローを決める
	2	Let's Listen 1, 2 (M) ・登場人物の得意なこと Let's Listen 3 ・3人の登場人物について聞く
	3	<どんなことを紹介するといいかな> ・ヒーローを紹介する内容を考える ・教師のヒーローなどについて聞く ・ヒーローを紹介する内容を決める
4	1	Let's Listen 3, 5 (M) ・登場人物の話の聞いてわかったことを書く
	5	<ヒーローを紹介する文を考えよう> ・ヒーローについて英語で紹介する
3	1	<ヒーローを友達に紹介しよう> ・自分のヒーローについて友達と伝え合う
	2	Activity 2 (M) ・ヒーローを紹介する文章を書く
	3	<単元の学習をふり返ろう> ・単元の学習で身につけた力 ・単元の学習で深く考えたことをふり返る

M: モジュール授業×3

###### (2) 単元展開 (全 10 時間)

本単元の流れを表 7 に示す。

先述の通り、本単元では、教師側の意図として、「失敗から学ぶ」ことを大きなテーマとして設定した。しかし、外国語の授業だけでは、児童が使える言語材料が限られているため、特に表現することにおいて、このテーマに十分迫る

ことが難しいと考え、外国語に加え、国語、特別の教科道徳、総合的な学習の時間等を活用した教科横断的な指導を行うこととした。

第一次では、学習のゴールを提示し、「My heroを紹介してみよう」と投げかけ、まず言わせてみることにより、できないことやわからないことから学習する必要があることに気付かせ、児童と学習計画を立てた。

第二次では、My heroを決め、その紹介を考えた。その後、国語や総合的な学習の時間に、伝記を読んだり自分で調べたりするなど、人物について詳しく知ることができるようにした。

第三次では、各自の hero について紹介した。紹介し合う時間を十分に取って、友達が誰を選んだのか、なぜその人物なのかをじっくりと聞き合い、理解することができるようにした。単元末には、「マイヒーローブック」を作り、国語で伝記を読んで考えたこと、総合的な学習の時間で書いたヒーロー新聞、外国語で書いたヒーローを紹介する文章を一つの成果物にまとめた。

### (3) 教科横断的指導

紹介する内容を考えた第2次第3時の後、国語の「百年後のふるさとを守る」(光村図書)の単元で、伝記の読み方について学習した。教材文から浜口儀兵衛の業績や考え方、生き方を読み取り、思うことを文章に書き表した。

特別の教科道徳では、「日本のまんがの神様『手塚治虫』」「ライバルは自分自身」「太平洋のかけ橋 新渡戸稲造」(いずれも学研)の題材を用いて、手塚治虫、浦田理恵氏、新渡戸稲造の業績や生き方について学んだ。

総合的な学習の時間では、自分の選んだヒーローについて調べ、ヒーロー新聞を書いた。

#### 4.3.2 再考のための聞く活動

第2次で児童が考えたヒーローについて紹介する内容を再考する視点を与えるために、教師のヒーローなどについて英語で聞かせた。その授業の流れを表8に示す。

導入として Teacher Talk を行った後、展開

表8 学習の流れ

時	学習活動
導 入	1. あいさつ、Teacher talk ・ 季節の話題について英語で聞かせる
	2. 本時の課題を確認する <どんなことを紹介するといいいかな>
展 開	3. 紹介する内容を考える ・ 一度紹介する内容を考えた上で、教師のヒーローの紹介を聞く
	4. 他のヒーローの話聞く ・ ヒーローを紹介する視点について確認する
終 末	5. 本時のまとめとふり返しをする ・ ヒーローの失敗や苦労を紹介に入れることをまとめる ・ 視点に沿ってふり返しを書く

では、まず、ヒーローの紹介の内容について考えた。その後、紹介の内容を考える視点に気付かせるために、業績や功績に加えて、失敗や挫折、苦労があったこと、そこを乗り越えてきたことを含んだ教師の選んだヒーロー(八村塁と手塚治虫)について聞かせた。スクリプトの例を表9に示す。

「失敗から学ぶ」という大きなテーマに迫るために、児童がじっくりと英語を聞くことによって、自分と向き合って考えることが期待できると考えた。聞く力は着実に伸びてきているため、これまで以上にまとまった量の英語を聞かせるようにし、未習の語彙が多く含まれていても、文脈や視覚資料から推測して聞くことができるようにした。また、英語は複数回聞かせるようにし、1度目は視覚資料を利用しながら初めから終わりまで一通り聞かせ、2回目はインタラクションを交え、内容を確認しながら聞かせた。

#### 4.4 データ分析

研究課題について明らかにするために分析対象としたデータは、主に、(1) 前節で述べた聞く活動を行った授業で児童が使用したワークシー



表9 ヒーローの紹介の SCRIPT 例

八村塁

He is playing for the Washington Wizards now. He is from Toyama. He started to play basketball when he was a junior high school student. When he was a high school student, he decided to enter an American university. He couldn't speak English and he couldn't communicate with his teammates. He couldn't take part in the competition at first. American members did not accept him as a member of their team, but he never gave up. He practiced and studied English very hard. He studied 7 or 8 hours a day. Now he can talk with his friends. He improved himself. He is great. He is my hero.

手塚治虫

He is Tezuka Osamu. He is a comic creator. He is from Osaka. When he was a kid, he was a bullied kid because Osamu was small and he didn't like any sports. But he was good at drawing pictures. His friends liked Osamu's pictures. When he was 32 years old, he started his animation company. The company produced "The Atom". It was very popular. Osamu made many famous comics but his company was getting worse. His animation cost too much. When he was 45 years old, he had to close his company. He couldn't work but he never gave up. He kept drawing and he produced a wonderful character. It was "The Black Jack".

ト、(2) 本単元終了後のふり返りのワークシート、(3) 国語の授業で書いた文章、(4) 総合的な学習の時間に書いたヒーロー新聞である。また、児童が毎日書いている日記や授業を録画したビデオ、観察時に記録したフィールドノートを補助的に活用した。

(1)のワークシートからは、主に教師のヒーローを聞く前後での児童の考えの変容を、(2)~(4)の記述からは、単元全体を通じた児童の姿について検証した。

## 4.5 結果と考察

### 4.5.1 研究課題(1)：考えの再構築

第2次第1時では、それぞれのヒーローを決めた。My heroを「自分の尊敬する人物、憧れの人物」として提示していたこともあり、子供達は業績や功績から自分のヒーローを選んだ。

第2次第3時で教師のヒーローとして八村塁や手塚治虫について聞かせた後、「先生はどんなことを紹介していたかな」と尋ねると、児童からは「失敗したこと」や「苦勞したこと」、そして「そこから立ち上がってきたこと」との発言が見られた。教師のヒーローの話聞いて理解すると同時に、ヒーローを紹介する新たな視点に気付くことができたと思われる。再度どのようなことを紹介するか考えさせたところ、ワークシートの記述から、多くの児童が、失敗、挫折やそれらを乗り越えたことを書いた。ワークシートの記述の例を表10に示す。

児童Fはこの時点では、自分が選んだヒーローの具体的な失敗や挫折などについてわから

表10 授業ワークシートの記述

児童D：クレオパトラ

(最初) 勇気があること、話術がすごいこと  
(聞く活動の後) ローマ軍に攻撃されそうになったこと

児童E：野口英世

(最初) 医者を目指してどんなことをしたか、どんな人だったのか、すごいところ  
(聞く活動の後) いじめにあっていたこと、いじめを見返そうと頑張ったこと、黄熱病の治療薬をたくさん作った

児童F：松元克夫

(最初) 何の選手か、どんな大会でメダルを取ったか、どんな泳ぎが得意か、その人のすごさ

(聞く活動の後) 苦勞、させつ、失敗

ず、挫折、失敗というように記している。同様の記述は他の児童にも見られたが、その後の総合的な学習の時間での調べ活動の中で、業績や功績に加えて失敗や挫折について具体的に調べ、ヒーロー新聞にまとめていた。英語でのヒーローの紹介を聞いて理解したことを視点として、自分が選んだヒーローについての理解を深め、その人物像を再構築したといえる。

また、単元末のふり返りに、「色々な情報からどんなことを選んだらいいか深く考えた」、「くわしく調べたことをうまく伝えられるように考えた」などと記した児童もおり、表現するために思考を深めている様子も見られた。

#### 4.5.2 研究課題(2) 児童の変容や成長

本単元設定時の児童に対する教師の願いは「失敗を恐れず、挑戦できるようになって欲しい」、「失敗したことから目を背けず、失敗から

表 11 児童 F の文章と単元末のふり返り

##### 国語で書いた文章

ぼくの尊敬する人物は、水泳選手の松元克夫選手です。彼は三才から水泳を始めました。世界水泳で銀メダルを取りました。(中略)

松元選手のすごさは、あきらめない心です。右肩に負担がかかるような泳ぎをしていて、二〇一八年の秋に痛みを感じるようになり、約三ヶ月間治りようにせんねんしました。しかし二〇一九年の四月に行われた日本選手権で自己ベストを更新するなど、活やくしました。松元選手はけがをのりこえて短い時間でフォームをかえて、また活やくしたということはすばらしいなと思いました。

ぼくは、できないと思ったらすぐあきらめてしまうことがあります。松元選手のようにけがをしてもまた活やくできるようにという強い思いから、あきらめない心が生まれたと思います。ぼくも松元選手のように強い気持ちをもちたいです。

##### 単元末のふり返りワークシート

自分の本当のヒーローを考えて、その人の業績や苦勞を考えることができました。

学んで欲しい」、「他者の生き方に触れ、自分の生き方について考えて欲しい」の3点であった。

単元末のふり返りにおいて、ヒーローは皆、苦勞や努力をしているということに言及している児童が多く見られた。

児童 F が英語の授業で教師のヒーローの話を聞いた後に、国語の学習で書いた文章と単元末のふり返りワークシートの記述を表 11 に示す。ヒーローとして選んだ水泳の松元克夫選手の生き方と自分の生き方を関わらせて考えている様子が見られた。

外国語の学習で学んだ紹介する視点を活用している様子が、国語の文章にも表れている。また、総合的な学習の時間に書いたヒーロー新聞にも、松元選手の苦勞やそこから学んだことをまとめていた。

単元末のふり返りワークシートで、単元全体をふり返って、深く考えたこととして、アインシュタインの挫折について書いた児童 G は日記の中で、アインシュタインについて表 12 のように述べている。

総合的な学習の時間を活用して調べ学習を進めていく中で、外国語の学習で学んだ紹介する視点を活用し、どんなヒーローでも失敗や挫折があり、それらを乗り越え、目標に向かって努力してきたことを知ることによって、失敗について捉え直している。

表 12 児童 G の単元末のふり返りと日記

##### 単元末のふり返りワークシート

アインシュタインに挫折があったのかや、今活躍している人は苦勞や挫折があったのだなということについて深く考えた。

##### 日記

今日の三限の総合では、前回に引き続き、ヒーローについて調べました。

(中略) アインシュタインに失敗や苦勞があるのかなあ?と心配していました。しかし、昔は無名で、特許局で真面目に働きながらも、自由な時間で研究を続けていたそうです。

やっぱり、どんなすごい人でも失敗や苦勞があったんだなと改めて分かりました。



児童 F や児童 G に見られるように、本単元及び関連する他教科の学習を通して、失敗について考え、「失敗から学ぶ」ことができたといえる。そして、他者の失敗から学ぶだけでなく、自分自身をふり返り、あきらめずに挑戦していこうという意志を持つことにつながっている。

#### 4.5.3 課題

単元末のふり返りに「英語で言えても相手に伝わらなければ意味がない。相手に伝えるのは大変だということがわかった」など英語の表現に関する記述が複数見られた。本単元を通して、自分のヒーローについて紹介するために必要となる様々な語彙や表現を、必要感を持って学び語彙を増やすことができた。一方、伝えたい内容を相手が理解しやすいように、限られた既習表現をどのように活用していくかについては、継続的な指導の必要を含め、今後の課題である。

#### 4 終わりに

本研究においては、小学校 5 年生を対象に、教師の児童に対する願いに基づき設定した単元、及びその中で他者の様々な考えなどを聞く活動を通して、児童の考えを広げ深めるなどの再構築を促すとともに、学級の一人ひとりの成長、学級づくりにつながることを目指した英語の授業を実践した。

2 つの実践について研究課題を中心に検討した結果、児童は伝える内容について再考している様子や単元を通して、教師が児童に対して持っている願いに沿った変容が見られた。したがって、聞く活動を通して、他者の考え方に触れることによって、自分の考えとの相違点等に気づき、考えの再構築を促すことが可能となったといえる。さらにそれらが、教師の児童に対して願う姿をゴールとしてイメージし、それに基づいて設定した単元や言語活動の中に位置づけられることによって、自分の考えを広げ、深め、学級経営や人間としての成長につながる可能性が示された。

一方、思考を深め、伝え合う内容が広がって

くると、それらを表現するための語彙や文構造等の言語材料が必要になる。必要感を持って言語材料を学ぶ姿が見られたが、相手が理解しやすくなるよう、限られた既習の言語材料を活用していく方法が求められる。それらの実現につながるような、継続的な指導のあり方については今後の課題である。

#### 注

1) 本研究は、田中・高木ほか(2019)による「実践研究」を枠組みとする。「実践研究」とは、日々の授業実践での疑問、悩み、課題を探求するために行われる研究であり、日頃の実践や目の前の学習者について深く理解したり、実践上の課題を解決したりすることを目的とする。したがって、特定の授業等の文脈に限定されず、より多くの教室に適用できる一般化された知見を生み出し、英語教育学における理論構築及び分野全体の発展、向上を目指す「学術研究」とは枠組みを異にするものである。

2) 本研究における「教師の願い」は、単元や各時の「ねらい」とは異なる。「ねらい」は単元や授業を通して育成すべき資質、能力であり、外国語科における目標に基づくものである。当然のことながら、本実践においても「教師の願い」とは別に「ねらい」があり、単元や言語活動は「ねらい」の達成と「教師の願い」の実現を目指して設定している。

本論文は、第 20 回小学校英語教育学会中部・岐阜大会(2020年10月11日、Zoomによるオンライン開催)にて口頭発表した内容に加筆、修正したものである。

#### 引用文献

Harmer, J. (1998). *How to Teach English*. Harlow: Longman.

Harmer, J. (2001). *The Practice of English Language Teaching*. 3rd. Edition. Harlow:

---

Longman.

文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成29年告示解説 外国語活動・外国語編)』東京: 開隆堂.

乗富智子・滝沢雄一 (2019a) 「We Can!でつくる小学校英語授業 第1回 単元のゴールとなる言語活動の設定」『英語教育』Vol. 68, No.1, 52-53.

乗富智子・滝沢雄一 (2019b) 「We Can!でつくる小学校英語授業 第2回 単元1時間目の授業」『英語教育』Vol. 68, No.2, 52-53.

乗富智子・滝沢雄一 (2019c) 「We Can!でつくる小学校英語授業 第3回 伝える内容を再考し、広げ深める手立て」『英語教育』Vol. 68, No.3, 52-53.

乗富智子・滝沢雄一 (2019d) 「We Can!でつくる小学校英語授業 第4回 言語活動と関連付けた言語材料の学び」『英語教育』Vol. 68, No.4, 52-53.

乗富智子・滝沢雄一 (2019e) 「We Can!でつくる小学校英語授業 第5回 『聞くこと』の指導」『英語教育』Vol. 68, No.5, 52-53.

田中武夫・高木亜希子・藤田卓郎・滝沢雄一・酒井英樹 (2019) 『英語教師のための「実践研究」ガイドブック』東京: 大修館書店.

Wills, J. (1996). *A Framework for Task-Based Learning*. Harlow: Longman.

---